

2013年7月3日

各 位

積水ハウス株式会社
ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン

積水ハウス × ダイアログ・イン・ザ・ダーク(DID)
共創プログラム「対話のある家」《第2回：夏》
8月3日(土)から開催 チケット販売開始は7月10日(水)正午

積水ハウス株式会社（本社：大阪市北区、社長：阿部俊則、以下「積水ハウス」）は、「グランフロント大阪・ナレッジキャピタル」内に開設した「SUMUFUMULAB（住ムフムラボ）」において、ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン（本社：東京都渋谷区、代表：金井真介、以下「DID」）と展開する共創プログラム「対話のある家」《第2回：夏》のチケット販売を7月10日(水)正午から開始致します。

積水ハウスとDIDによる共創プログラム「対話のある家」では、光が完全に遮断された暗闇の中にグループ（6名まで）で入り、暗闇のエキスパートであるアテンド（視覚障がい者）のサポートのもと、住まいにおける様々な生活シーンを体験します。その過程で視覚以外の感覚の可能性と心地良さに気付くとともに、コミュニケーションの大切さ、人の温かさを再発見することができます。

「対話のある家」《第1回：初夏》（4月26日(金)～6月24日(月)）では、全238回開催して1,388名が参加。口コミを中心に話題となり、6月4日(火)にはチケットが完売しました。一般チケット購入による参加者※は大人88%、学生9%、小学生3%で、男性39%、女性61%。シングル、カップル、グループ、家族連れと幅広い層の方に体験いただきました。大阪での長期開催を聞きつけて、名古屋や岡山からの来場もありました。また、一般のお客様だけでなく、積水ハウスの社員研修としても活用しており、今後は本プログラムを住宅技術の研究開発にも活用していく予定です。

※ 社内研修や取材を除く

■お客様の声(体験終了後のアンケートからの抜粋)

- ・普段どれだけ視覚に頼っているかに気づいた。気配、声、におい、感覚を活かすことで新しい見方ができると思った。(30代 女性)
- ・家族の声が集まってくるような温かい家にしたいと思いました。(20代 女性)
- ・一番感じたのは人と人のつながりの大切さ。予想以上の経験をさせてもらった。(40代 男性)
- ・声を掛け合うことで人が優しくなれるのを感じた。今の世の中、声掛けが少なくなったので多くの人に体験して欲しい。(50代 女性)
- ・快適さは広さや豪華さではないことがわかった。(40代 男性)
- ・まっくらでよかったけど、みんなの声があったから安心しました。(9歳 女性)

■共創プログラム「対話のある家」《第2回：夏》 概要

開催場所： 積水ハウス「SUMUFUMULAB(住ムフムラボ)」(うめきた グランフロント大阪・ナレッジキャピタル4F)
開催期間： 2013年8月3日(土)～9月23日(月・祝)
開催日時： 下記ダイアログ・イン・ザ・ダークのホームページでご確認ください。
定休日： 火曜日・水曜日
所要時間： 70分
参加人数： 1グループ・6名まで(完全予約制)
参加料金： 大人3,500円／学生2,500円／小学生1,500円 (税込)
購入方法： ダイアログ・イン・ザ・ダークのホームページからのWEB予約のみ
<http://www.dialoginthedark.com/> (※「住ムフムラボ」HPのトップページからもリンクを張っています)
チケットに関するお問合せ先： 0570-006-506 (※IP電話からは0986-46-2672)
(火曜日～土曜日12～18時、月曜日・日曜日・祝日休業)

<本件に関するお問合せ先>

積水ハウス株式会社 広報部(大阪) 06-6440-3021 (東京) 03-5575-1740
DID「対話のある家」事務局 0120-29-2704 (11～18時、土曜日・日曜日・祝日除く)